

予算特別委員会 委員長報告  
事業の必要性を問う

予算特別委員会では、一般会計予算を始め、特別会計予算、企業会計予算、条例などの議案について、市民ニーズを的確に反映しているか、効率的かつ効果的な予算編成になっているかなどに主眼を置きながら、慎重に審査した。

地方自治体の財政は、消費税増税の延期や地方交付税削減の影響を受け、ますます厳しい状況が予想される。本市においても、歳入では、市税収入で伸びがあるものの、地方交付税13億円減少の影響は大きく、基金を取り崩した予算編成になっている。一方、歳出でも、公債費や社会保険関係費の割合が高く、財政健全化のため、プランを早急に策定し、着実に実行することが求められている。



こうした課題に取り組み

【予算特別委員】

- 委員長 友永 修
副委員長 反甫 旭
委員 金子 拓、桑原 佳、河合 啓、池田 上、井上 孝三郎

審査過程での  
主な意見・要望

- ▽市民生活を守るため、安全な市庁舎の早期建設を。
▽債権回収部門の設置により、未収金の改善を。
▽安心して子育てと仕事が両立できるよう、待機児童解消を含めた支援を。
▽SNSによる発信や企画、広報とともに、広域連携による魅力のある観光施策を。
▽企業型経営手法を研究し、その長所を導入した「岸和田型行政経営」の構築を。
▽通学路の安全対策を。
▽DV対策の向上や児童・障害者・高齢者虐待防止に向けた専門職の増員を。
▽岸和田の教育のため、少人数学級の早期拡充を。
▽自主的な市民活動の発展のため、市民活動サポートセンターの体制充実を。



3人の議員が一般質問

アレルギー対応  
早期の見直しを

金子 拓矢

【問】食物アレルギーのある児童に対し、昨年4月から除去対応する食材を4品目に限定したことで、市民サービスが大きく低下した。以前より将来的な見直しについて言及しているが、その進捗よく状況はどうか。
【答】ガイドラインの機能定着を図り、安全な給食の運営が行えるめどが立った時点で、ガイドラインを再検討すべきと対応委員会から報告される予定である。千歳市のなかよし給食は、どの子供にも同じ給食を提供するという優れたシステムであり、西宮市が導入したアレルギー管理システムと併せて調査研究したい。



老朽化の進む庁舎

【問】災害対策本部の中枢施設である庁舎の建て替えは喫緊の課題であるが、その進捗よく状況はどうか。
また、現庁舎のある地域へ説明することや、庁舎建替庁内検討委員会を機能させる必要があるがどうか。
【答】平成29年度は、庁舎建設基金への積み立てが予算化できていない。一方で、32年度まで新たな起債制度が設けられており、活用を検討したい。

競輪場再整備で  
持続可能な事業へ

鳥居 宏次

【問】競輪事業を昭和26年に開始して以来、一般会計に総額約608億円を繰り出している。一方、平成18年から27年までの10年間の収益の合計は46億6400万円となる。
まず、28年から32年までの今後5年間の収益の推計について聞きたい。
また、競輪事業の実績を正當に評価し、将来の収益体質を見据え、持続可能な事業とする必要がある。このため、老朽化が進んだ施設の安全対策となる再整備計画に取り組むべきと



考えるがどうか。

【答】28年度からの事業収支としては、3億1800万円、4億2300万円、5億2100万円、3億8700万円、3億2300万円と推移し、5年間の合計で19億7200万円の赤字と見込んでいる。また、来場者のニーズなど、競輪を取り巻く環境は大きく変化してきており、将来を見据え、施設のあり方を検討しているところである。

今後、継続した収益確保に取り組みとともに、施設整備に係る事業については、最近の収益額なども参考にしながら、早急に施設整備の方向性を取りまとめ、具体的な費用などを示したい。

働き方の改革で  
市民サービス向上を

その他の質問  
○まちづくりと交通インフラの関わり

反甫 旭

【問】現在、政府では働き方改革に取り組んでおり、長時間労働の是正も重要な

焦点となっている。本市における職員の時間外労働の現状を聞きたい。
【答】直近3カ月の間で、時間外勤務が月100時間を超える人数は、11月が1名、12月が7名、1月が3名となっている。また、直近3カ月の間で、時間外勤務が月平均60時間を超える人数は、22名となっている。傾向として、福祉部門の時間外勤務が多い。

【問】先日発覚した、生活保護に係る統計調査の報告数値の誤りも、そうした市職員の労働状況が原因の1つと考える。長時間労働には多くのリスクが潜むと思うが、どのように改善していくのか。
【答】本市では、時間外勤務の適正管理に関する指針を策定し、全庁的に取り組んでいる。長時間働くことが評価されるのではなく、業務の削減・効率化に取り組み、労働の質を高めることにより、生産性を向上させることが重要である。そうした考えのもと、職員一人ひとりが仕事に対する意識を変えていく必要がある。引き続き指針にのっとり、長時間労働の是正に取り組んでいきたい。

